



「さりげなく、目立たない支援を」



- 小学部のYさんは、人前で話すことが苦手です。職員室に入室するときは、「チーン」とベルを鳴らすと、近くにいる職員がYさんの気持ちを代弁して、「失礼します。〇〇を取りにきました」と話します。用事を済ませたYさんは、職員の「失礼しました」に合わせて、はにかみながらお辞儀をして退室します。音楽の授業で歌うときは、歌詞カードを用意して、みんなが歌いやすいように、今歌っている歌詞を指示棒で案内する係を行っています。
- 12月24日（金）、Yさんにとって大きな舞台が用意されました。それは冬休み前集会で小学部代表として、「頑張り発表」をすることでした。果たして自分の思いを全校のみんなに分かるように伝えることができるのか、とても心配でした。担任と一緒に前に出てきたYさん、後期に頑張った活動を電子黒板の空欄に、**㊦** **㊧** **㊨** **㊩**、そして、関わってくれた先生や友達に、**㊪** **㊫** **㊬** **㊭** **㊮**と感謝の気持ちを力強く指で表現しました。さらに、冬休み明けに頑張ることとして、国語の授業で学んだ片仮名を使って**㊯** **㊰** **㊱**と書き込みました。会場からは割れんばかりの大きな拍手と歓声が湧き起こりました。もちろんYさんは少し照れながら笑顔で応えました。泣き止んだ後の笑顔とはにかんだ笑顔は、子どもにとって最高の笑顔です！
- 自分の思いや要求を言葉や音声で伝えることに課題のある子どもにとって、ICT機器は話し言葉によるコミュニケーションの代替手段の一つとなります。Yさんは、わざと「話さない」のではなく、不安や緊張のために「話せない」状態です。学校では、「話す」ことに注目するのではなく、「不安」を取り除き、今できることや得意な活動に注目して自己肯定感を高めたいと考えています。そのために、Yさんが安心できる環境（場所・人・活動）を用意する、ジェスチャーやサインなどの非言語的コミュニケーションを大切にする、言葉を掛けるが答えや反応は求めない、さりげなくほめるなど、目立たない支援を心掛けたいと思います。